



農事普及だより

(8月号 平成27年8月1日～8月31日)

〔発行〕鶴田町／鶴田町農業支援センター／鶴田町産業観光課
つがるにしきた農業協同組合鶴翔統括支店
西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室
〔編集〕西北地域県民局地域農林水産部農業普及振興室



(平成27年7月24日 仙台管区気象台発表 東北地方3ヶ月予報より)

東北日本海側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。



生育に合わせた適切な水管理をしましょう。
斑点米カメムシ類と穂いもちの防除を徹底しましょう。

1. 生育概況

生育は平年並み～やや早まっている。

今後、気温が平年並みに推移した場合、早い地域では「まっしぐら」で7月31日頃から出穂期となり、管内の出穂最盛期は8月4～7日と予想される。

(表1) 幼穂形成期到達状況と出穂期の見込み

| 品種名 | 幼穂形成期 | 出穂期の見込み |
|--------|----------|----------|
| つがるロマン | 7月9日～16日 | 8月2日～9日 |
| まっしぐら | 7月7日～14日 | 7月31日～7日 |

2. 水 管 理

高温時には時々水の入れ替えや掛流しを行い、根の活力を維持する。

(表2) これから水管理

| 生育期 | 寒い日 | 暖かい日 | 備 考 |
|---------|----------------------------------|------------------|------------------------|
| 出穂開花期 | (最高気温25℃以下) 10cm | 5～6cm 時々水の入替 | 最高気温25℃ 以下で開花・受精不良 |
| 登 熟 期 | (最低気温15℃以下) 10cm以上 | 2～3cm 湿田は間断灌漑 | 台風時は脱水 症状防止のため6cm前後 |
| 落 水 時 期 | 湿田では出穂後20～25日目 乾田では出穂後30～35日目 | | 落水が早すぎると収量・品質が低下する |

3. 病害虫防除

(1) 斑点米カメムシ類

- ・薬剤防除は、残効性が高い薬剤で、穂揃期（80%の穂が出穂した時期）～穂揃14日後に散布する。2回散布体系の場合は、穂揃期と穂揃期の7～10日後に散布する。多発が予想される場合などは、2回目散布の7～10日後に、さらに3回目の防除を行う。
- ・水田だけでなく畦畔にも散布し、できるだけ広域一斉散布を行う。
- ・草刈りは薬剤散布後速やかに行う。

(2) 穂いもち

出穂直前（走り穂が見えた時期）と穂揃期の2回散布を徹底する。多発

が予想される場合には、穂揃期5～7日後にも薬剤散布を行う。

(3) 紋枯病

前年の菌核が伝染源であるため、前年に発生が多かったほ場では、出穂直前に茎葉散布を行う。



見直し摘果の徹底によりワンランク上の果実生産を!
落果防止剤の散布は適期に!!

7月21日現在のふじの横径は、板柳町高増（県生育観測）で6.3cm（平年比119%）で平年を上回っている。

ふじの着果率（7月14～15日調査）は、西北地域の平均で31.1%と平年よりも高く、着果量の多い園地も見られる。

1. 見直し摘果

仕上げ摘果を終了した園地でも、見落としや過着果の部分がないか、もう一度見回り、必ず見直し摘果をする。見直し摘果は、肥大の劣る果実、腋芽に成った果実、サビ果、扁平果、つるの曲がった果実、日陰になる果実、病害虫被害果を主体に摘み取る。

お盆過ぎ以降は、「加工仕向けは、ほ場で選果」を目標に、収穫時まで随時、手直し（樹上選果）を行う。

2. 徒長枝の整理及び支柱入れ

支柱入れ、枝吊り、徒長枝の整理などの作業が本格的になるが、高温晴天のとき、急激に強い日差しを当てるとき果実に日焼けを起こすので、支柱入れに当たっては下がった枝を支える程度にする。

3. 病害虫防除

(1) 薬剤散布（県りんご病害虫防除暦より抜粋）

| 散布時期 | 対象病害虫 | 基 準 薬 剤 |
|--------------------------|---------------------------------|--|
| 8月半ば (8月15日～ 16日頃) | 斑点落葉病 炭疽病 ハダニ類 モモシンクイガ | ペフラン液剤25 又はアリエッティC水和剤 又はダイパワー水和剤 又はブリアWDG 1,500倍 800倍 1,000倍 2,000倍 |
| 8月末 (8月30日～ 31日頃) | 斑点落葉病 炭疽病 ハダニ類 モモシンクイガ | ペフラン液剤25 又はフリントフロアブル25 又はストロビードライフロアブル 又はブリアWDG 1,500倍 3,000倍 3,000倍 2,000倍 |

※農薬はりんご園以外の作物等に飛散させない。住宅



○ペフラン液剤25及びアリエッティC水和剤は、他薬剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

○ストロビードライフロアブルは、スミヲン水和剤40又はダーズパンロF+オマイト水和剤との組合せで、「つがる」に薬害を生じた事例がある。

○フリントフロアブル25及びブリアWDGは、スミヲン水和剤40又はダーズパンロF+オマイト水和剤との組合せで、「つがる」に薬害を発生させる恐れがある。

○同一系統の薬剤であるストロビードライフロアブルとフリントフロアブル25は薬剤耐性の懸念があるので、同じ系統の混合剤であるブリアWDGも含めて年2回以内の使用とする。

○「つがる」などの早生種、「夏緑」など極早生品種に散布する場合、使用時期には十分注意する。

(2) 斑点落葉病

急増の恐れがある場合は、ユニックス顆粒水和剤47 1,500倍又はポリオキシンA水和剤 1,000倍を使用する。

(3) モモシンクイガ

無袋栽培では毎回モモシンクイガの防除剤を使用する。被害果は見つけ次第摘み取り、土中深く埋めるなど適正な処理をする。

(4) ハダニ類

発生が多い場合（樹冠内部の葉に1葉当たり成虫、若虫、幼虫込みで2個体以上）は殺ダニ剤を使用する。なお、殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、同一薬剤は年1回の使用にとどめる。

(5) リンゴコカクモンハマキ

8月以後、発生が多い場合は、果実に接触している葉を早めに摘み取る。

(6) クワコナカイガラムシ

発生が多い樹では、防除剤による胴木洗いを実施する。また、誘殺用のバードを第1世代成虫の産卵前（8月中旬）までに巻き付ける。

4. 落果防止剤の散布

本年は熟度の進みが平年より早いと見込まれる。

収穫前落果が多いつがるやさおうは落果防止剤を散布して落果を防ぐ。

(1) ストッポール液剤

○ストッポール液剤の使い方

| 品種 | 散布時期 | 回数 | 倍数 | 散布量 |
|--------------|--|----|--------|------------------|
| 未希ライフ きおう | 収穫開始予定日の20～15日前 本年：8月5日～10日頃 (平年：8月10日～15日頃) | 1回 | 1,000倍 | 350～400 ㍑/10a |
| | 収穫開始予定日の25日前 本年：8月10日～15日頃 (平年：8月15日～20日頃) | | | |

①単用散布（展着剤不用）とする。

②葉から吸収されて効果を出すので、葉に十分かかるようにする。

③葉摘みは散布4～5日後から始める。

④収穫は散布7日後までできないので注意する。

⑤「未希ライフ」や「きおう」に対して早期散布すると、つる割れ等が発生し、品質低下を招いた事例があるので、基準以外の使い方はしない。

⑥「つがる」に対して、本剤の2回散布や早出しを目的とした極端な早期散布、着色促進剤等との併用を行うと、果実の軟化や油上がりが著しく早まるほか、年によって裂果やつる元の腐敗が多く見られるので、上表以外の使い方は行わない。

⑦散布により果実の軟化が発生する場合があるので、収穫前落果の少ない品種には使用しない。

⑧「つがる」に対して、伸長中の新梢の先端部枝葉に薬害が出ることがあるので、高温時（28℃以上）の散布を行わない。

(2) ヒオモン水溶剤

本剤を使用した果実は熟度の進みや日持ち性が無散布の果実と同等である。

○ヒオモン水溶剤の使い方

| 品種 | 散布時期 | 回数 | 倍数 | 散布量 |
|-----|---|----|--------|------------------|
| つがる | 収穫開始予定日の21日前 本年：8月15～20日頃 (平年：8月20日～25日頃) | 1回 | 2,000倍 | 300～600 ㍑/10a |

①単用散布（展着剤不用）とし、薬液が葉先から滴り始める程度にむらなく樹全体に丁寧に散布する。

②葉摘みは散布当日から可能だが、散布後4日間は収穫できない。

③散布直後の降雨は効果を減ずるので、天候を見極めてから散布する。

④高温時の散布は避ける。

5. 風害防止対策

台風等に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝

や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

機械やハシゴの事故が増えてます！
農作業は焦らず、急がず、慎重に！！

ぶどう

良品生産に向け適正な管理に努めましょう！

1. 摘粒及び摘房

着色不良果（赤目）防止や房枯れ症状予防のため、遅くとも着色始め頃（8月中～下旬）までに再度着房数を点検し、摘房を終える。また、支梗単位での切除や摘粒を行い、適正な大きさの果房に整える。

○着房の目安

| 結果枝の葉数 | 着房程度 |
|-----------|-------|
| 葉数が13枚以下 | 成らせない |
| // 14～18枚 | 1房 |
| // 20枚前後 | 1～2房 |
| // 25枚以上 | 2房 |

2. 新梢（結果枝）の管理

新梢が徒長している園地では、隨時摘心を行い、過繁茂防止に努める。また、新梢の基部まで十分日光が当たるように誘引する。

3. 病害虫防除

(1) 薬剤散布（県特産果樹病害虫防除暦スチューベン基準より抜粋）

| 散布時期 | 対象病害虫 | 基 準 薬 剤 |
|------|---------------------|---|
| 8月上旬 | 晚腐病 ベと病 灰色かび病 | アミスター10フロアブル 1,000倍 又はストロビードライフロアブル 2,000倍 又はホライズンドライフロアブル 2,500倍 |

注) この時期の散布は、果面汚染防止のため展着剤を使用しない。

(2) 晚腐病対策

発生が多い園地では、アミスター10フロアブル又はストロビードライフロアブルを選択する。

なお、ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるホライズンドライフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので、**合わせて年2回以内の使用**とする。

(3) ベと病対策

被害葉・果房は見つけ次第摘み取り、処分する。また、排水対策、薬剤散布など防除対策を徹底する。

(4) 灰色かび病対策

長期貯蔵向けの灰色かび病対策として、8月下旬から9月上旬にパスター顆粒水和剤1,500倍を特別散布する。

※他の農薬はぶどう園以外、宅に飛散させない隣の住まい。



1. 追肥とかん水

1回当たりの追肥量は液肥の場合、10a当たり窒素成分で0.3～0.5kgとし、1～2日おきを目安に行う。追肥の間隔や量は、草勢を見ながら決める。

かん水量は1株当たり1.5リットルとし、頻度は毎日～1日おきを目安とするが、高温が続く場合や摘葉を最小限にとどめる場合は、かん水量を増やし草勢をコントロールする。

また、高温が続く場合は、7～10日間隔で通路かん水も実施する。

2. 温度管理

ハウス内温度が高温にならないよう注意し、サイドの開放だけでなく、肩換気やリマ面換気を行う。

3. 病害虫防除

病害は、灰色かび病、葉かび病を主体に、作用性の異なる薬剤を組み合わせたローテーション散布とする。

また、灰色かび病、葉かび病は、ハウス内の湿度が高く通気性が悪いと蔓延しやすくなるので、①換気、②通路マルチ、③下葉の摘葉（収穫終了果房下）等の耕種的防除も併せて行う。

虫害は、アブラムシ類、アザミウマ類の他、タバコガ類の発生も見られていて、よく観察して防除薬剤を選択する。

気温の低下とともに、疫病やうどんこ病、オニシツコナジラミの発生が増加するので、発生に注意して薬剤散布する。

キク

1. 今後の作業

- 夏秋ギクの収穫は、花弁が着色し、2～3分咲きの時に行う。収穫後は、株養成のため、土寄せや追肥を行う。
- 秋ギクはハウスを積極的に換気する。また、高温時は必要に応じて一時的に遮光し、ハウス内温度をできるだけ下げるようとする。特に、シェード栽培では、夜間開放を行い夜温を下げるようする。

2. 病害虫防除

ヤガ類、アザミウマ類、ハダニ類等の早期発見・早期防除に努める。

トングコギキョウ

1. 今後の作業

- 高温期となり、葉先枯れ等の生理障害が出やすいため、積極的に換気するとともに、カルシウム剤の葉面散布や晴天日の遮光等により発生の予防に努める。
- 発芽期に達しているものでは、原則かん水を控えるが、萎れるようであれば適宜かん水する。
- 発芽後は、すみやかに1番花を摘み取り、2番花以降の削いを良くする。
- 収穫は、朝夕の涼しい時間帯に行い、萎れないよう直ちに水揚げする。

2. 病害虫防除

灰色かび病、ヤガ類、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

5～8月は「農薬危害防止運動」 実施期間です

- 安心な農産物生産のため、農薬使用状況を必ず記帳しましょう。
- 農薬使用の際には、必ず使用者の責任で最新の「農薬登録情報」を確認しましょう。
- 短期暴露評価の導入により使用方法の変更が予定されている農薬は、容器に表示された使用方法ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用しましょう。



【農業の相談はこちらへ】

農業についての各種相談を受け付けております。受付した内容は即時対応いたしますので、気軽にご相談ください。

鶴田町農業支援センター「豊明館」となり

午前9時から午後5時 022-2111（役場産業観光課）

××× わらの焼却は
やめましょう ×××

野菜

トマト

高温期に対応した肥培管理を行いましょう。

病害虫の早期発見・早期防除に努め、高品質な花きの生産に努めましょう。

～農事普及だよりは町ホームページにも掲載しております～

URL <http://www.town.tsuruta.aomori.jp/kurashi/kurashi-nougyou/post-117.html>